

The Japanese Society for the Study on Hoikusha Education

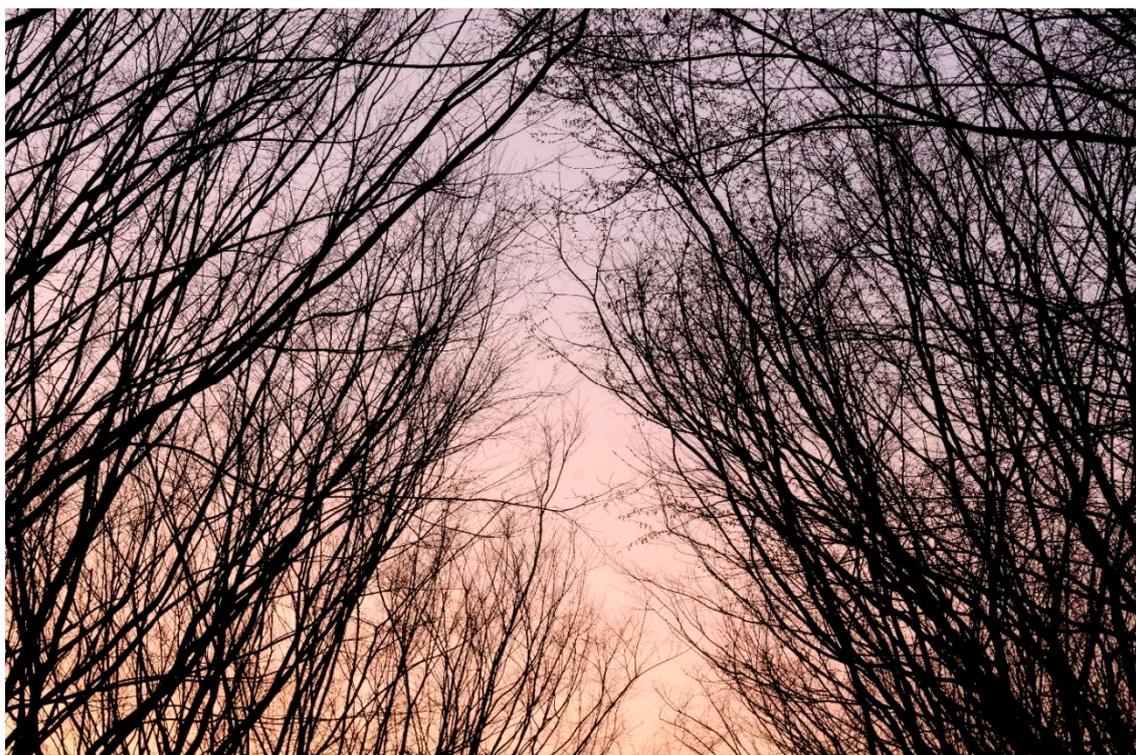
# 日本保育者養成教育学会

第10回研究大会 プログラム

大会テーマ

「岐路に立つ保育者養成の未来を考える」  
人材不足と需要変動に対応する共創に向けて

2026年2月28日(土)開催



主催校

神戸常盤大学



# 日本保育者養成教育学会

The Japanese Society for the Study on Hoikusha Education

## 第10回研究大会 プログラム

大会テーマ

「岐路に立つ保育者養成の未来を考える」

人材不足と需要変動に対応する共創に向けて

開催日：2026年2月28日（土）

主催校

神戸常盤大学

# 目次

日本保育者養成教育学会 第10回研究大会の開催にあたって . . . . . 1

## 大会参加者の方へ

大会スケジュール . . . . . 2

ポスター発表される皆様へ . . . . . 5

## 各セッションの紹介

基調講演 . . . . . 6

鼎談 . . . . . 7

ポスター発表 . . . . . 8

## 諸規定

「大会研究発表に関する規定」

「大会における座長および分科会運営に関する規定」

## 日本保育者養成教育学会 第10回研究大会の開催にあたって

### 大会テーマ：「岐路に立つ保育者養成の未来を考える」

#### 人材不足と需要変動に対応する共創に向けて

2026年2月28日(土)、日本保育者養成教育学会第10回研究大会を神戸常盤大学にて開催する運びとなりました。記念すべき第10回大会は、「岐路に立つ保育者養成の未来を考えるー人材不足と少子化に対応する共創に向けてー」を大会テーマとして掲げます。

これまでわが国の保育者養成教育は、社会状況や教育制度の変化に応じてその姿を変えながら、子どもと家庭を支える保育者の専門性を高めてきました。保育者養成校における教育の発展、養成課程の改革や改善は、時代ごとに求められる保育の在り方と密接に結びつき、保育者の資質向上に大きく寄与してきたといえます。70余年にわたるこうした歩みは、保育者養成教育が社会の信頼を得ながら進展してきた証しでもあります。

しかし現在、保育者養成教育は新たな難局に直面しています。子どもを取り巻く環境の多様化と社会的期待の高まりによって保育の役割は拡大している一方、現場では人材不足が深刻化し、養成校への進学者数も大きく減少しています。他方、少子化の進行は将来的に保育需要そのものを縮小させ、今とは逆に人材供給過剰をもたらす可能性をはらんでいます。私たちは「人材不足への対応」と「需要変動への備え」という二重の課題に迫られており、まさに今、保育者養成は大きな岐路に立たされています。

第10回研究大会では、このような時代的課題を正面から見据え、養成校・保育現場・行政が手を携えて取り組むべき方策を議論します。三者が相互に連携し、危機を共有しながら未来を共に描いていく姿勢こそが、持続可能な保育者養成教育の構築につながると考えます。本大会が、その共創に向けた確かな第一歩となり、保育者養成教育の新たな可能性を切り拓く契機となることを願ってやみません。

当日は基調講演と鼎談に加え、会員の皆様の日頃の研究成果を共有するポスター発表の場を設けます。本大会では、通常の発表区分に加えて大会テーマに沿った特設の区分を設定し、全国の養成校の取り組みを共有する場とします。さらに懇親会も予定し、参加者同士が直接交流できる場を大切にいたします。全国の研究者や実践者が一堂に会し、自由闊達な議論と出会いを通じて、保育者養成教育のこれからを共に考える場となるよう、開催校として万全の準備を進めております。

皆様のご参加を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

日本保育者養成教育学会 第10回研究大会  
大会委員長 大森 雅人 (神戸常盤大学)  
実行委員長 中西 利恵 (神戸常盤大学)

**大会参加者の方へ**

## 【大会スケジュール】

2026年2月28日(土)

時間		会場
9:00~16:30	【受付】 【クローク】	本館3階 インフォメーションロビー
	【企業展示・販売】	本館2階 エントランスロビー
9:45~10:00	【開会式】	本館2階
10:00~10:50	【基調講演】 保育人材の現状と課題 -福井県内の調査から考察する- 日本保育者養成教育学会 会長 石川 昭義 氏	メインホール
11:00~12:10	【鼎談】 今後の保育者養成校に求められること -保育職志望の中高生を増やし、新人保育者の離職を減らすために- 仁愛女子短期大学 教授 増田 翼 氏 福井県健康福祉部児童家庭課課長 藤原 美由紀 氏 仁愛女子短期大学 副学長・教授 石川 昭義 氏	
12:15~12:45	【総会】	
12:45~13:45	【昼食・休憩】 ※休憩コーナー:2号館1階 ときわんホール・2104教室、 本館5階 わいがやラボ・ラーニングコモンズも昼食可。	本館4階 ハローホール
13:45~14:45	【ポスター発表】 第1セッション ※前半 13:45~14:15_発表番号:奇数 後半 14:15~14:45_発表番号:偶数	本館2階 メインホール
	発表区分	
	A	B
	C	D
	E	
	PA1~28	PB1~15
	PC1~9	PD1~12
	PE1~10	
15:00~16:00	【ポスター発表】 第2セッション ※前半 15:00~15:30_発表番号:奇数 後半 15:30~16:00_発表番号:偶数	
	発表区分	
	A	C
	D	E + F
	G	
	PA29~57	PC10~18
	PD13~25	PE11~15
		PF1~5
16:15~16:30	閉会式	

○研究発表につきましては、発表の成立条件および注意事項をよくご参照ください。

○お弁当(事前にお申込みされた方のみ)の配布時間は、12:10~13:15となります。(場所:本館3階 ハローホール)

○休憩コーナーとして、本館5階、及び2号館1階を用意しております。

○閉会式終了後 16:40~18:00の間、情報交換会を行います。場所:本館3階ハローホール 参加費:5,000円  
当日参加も可能です。皆様と有意義な情報交換ができますことを心待ちにしております。

○クロークの利用は16:30までとさせていただきます。

情報交換会にご参加の方は(16:30以降は)、情報交換会会場の荷物置き場をご利用ください。

貴重品の預け入れはご遠慮いただきますようお願い申し上げます。

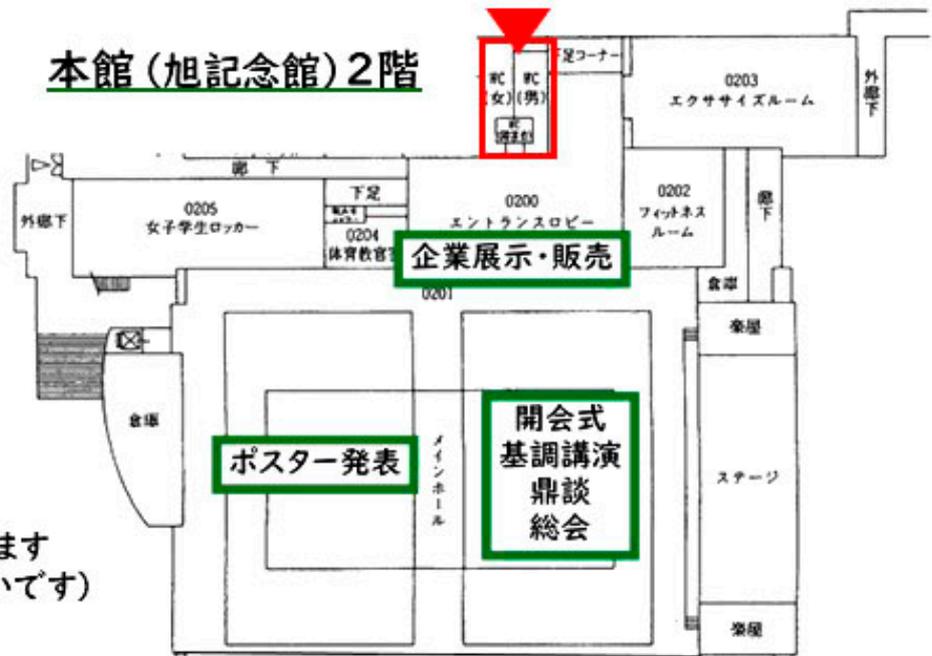
# 会場案内図

## 本館(旭記念館)2階



トイレ

※トイレは各階にあります  
(2階トイレは数が多いです)



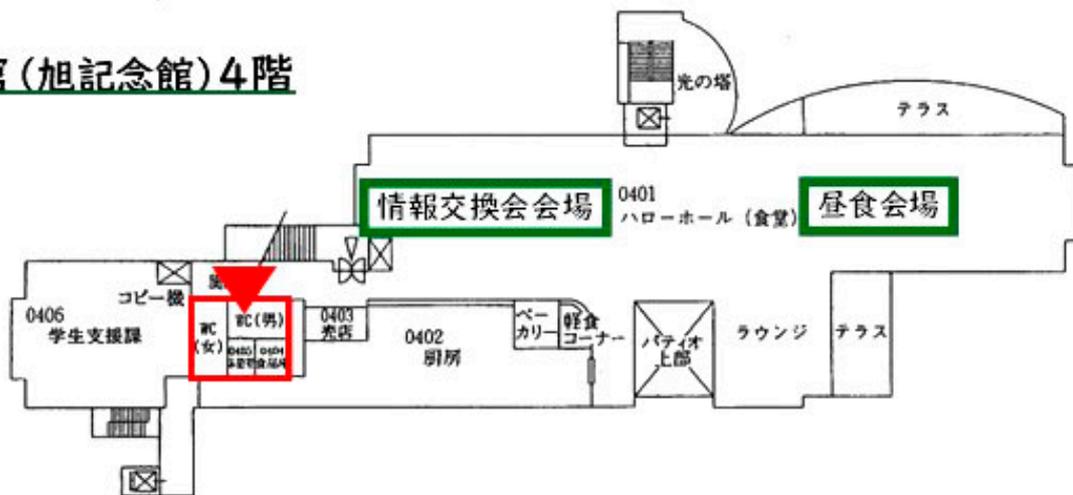
## 本館(旭記念館)3階



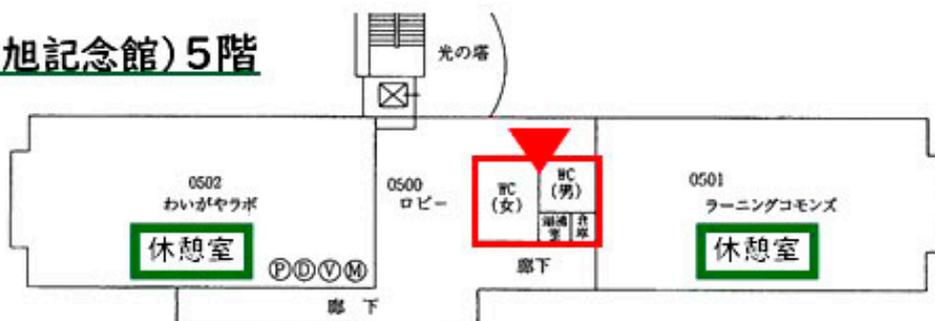
※正面入口は3階



## 本館(旭記念館)4階



## 本館(旭記念館)5階



# キャンパスマップ



## アクセス

山陽「西代」駅下車北へ 徒歩9分

JR・神戸市営地下鉄「新長田」駅下車北へ 徒歩15分



本学アクセスページQR



- ① JR「新長田」駅下車  
改札を出て北口(右)を東へ
- ② ローソンを目印に北(左)へ
- ③ セブンイレブンを通過し  
東(右)の横断歩道へ
- ④ 横断歩道を渡り  
「市立蓮池小学校」前へ
- ⑤ 「市立蓮池小学校」前を  
東方面(右)へ
- ⑥ ※山陽「西代」駅下車  
改札を出て北東出口へ  
(※山陽「西代」駅下車の方)
- ⑦ 神戸常盤アリーナを超え、  
西代蓮池公園内を左回りして
- ⑧ 公園北側横断歩道を渡り  
西へ(左)、「大谷交番」を通過  
して(右)、チェーンゲートへ
- ⑨ チェーンゲートを通って坂道を  
上へ(左側の坂道)
- ⑩ 正門から入って本館の受付へ  
お越しください

## ポスター発表をされる皆様へ

### 1) 研究発表の成立条件

①ポスター発表は、「ポスターでの発表」「質疑応答への参加」「要旨集への要旨の掲載」の3条件を満たすことで正式発表と認められます。また発表者は「発表説明責任時間」の間、自分のポスター掲示場所に在籍していなければならず、なおかつポスターは所定の時間掲示されなければなりません。

②発表者は、指定されたセッションの開始前に分科会会場での受付を済ませ、その会場にて待機してください。

③研究発表の際、筆頭発表者および連名発表者は必ず分科会に出席し、5分前までにポスター前で待機してください。

④筆頭発表者がやむをえない理由で発表ができなくなった場合、事前に大会実行委員会の承認を得ることで、連名発表者(他発表で筆頭発表者となっていない者)が筆頭発表者となることができます(筆頭発表者の交代)。座長への届け出での取り下げおよび交代は無効です。

\*以上に反することが確認された発表は、『発表取り消し』となる場合があります。

### 2) ポスター発表の方式について

①発表時間:ポスター発表の第1セッション(13:45~14:45)、または第2セッション(15:00~16:00)のいずれかの時間中は60分間ポスターを掲示してください。

そのうち前半(奇数番号)または後半(偶数番号)の30分間の「発表説明責任時間」では、座長がそれぞれの発表について質疑等を行いまで、必ずポスター前に在席をしてください。

「発表説明責任時間」に不在の場合は『発表取り消し』となりますのでご注意ください。

②発表形式:おおむね縦180cm×横90cmのスペースに、研究題目・発表者・所属が明記された研究の要旨・図・表・写真等からなるポスターを準備し、研究内容の説明と質疑応答等を行いながら、自由に討論を深めます。

③第1セッションの発表者は、定刻通り発表を終了し、速やかに片づけを行ってください。(14:50までに終了)また、第2セッションの発表者は14:55には、ポスター前で待機してください。

第2セッションの発表者は、16:05までに片づけを完了させてください。

# 各セッションの紹介

## 基調講演

### 保育人材の現状と課題 ―福井県内の調査から考察する―

日本保育者養成教育学会 会長 石川昭義 氏

#### 《講演概要》

保育者を養成する学校(以下、「養成校」という。)が募集を停止したり、定員を削減したりすれば、将来の保育を担う人がいなくなる。そのことは地域の保育の維持のみならず、地域の経済やコミュニティーにも大きな影響を及ぼすことになるのは明らかである。保育者はエッセンシャルワーカーであると同時に子どもの権利擁護の担い手であり、幼児期の教育を担う人である。保育者の募集を停止することは、「こどもまんなか社会」の担い手を失うということである。

しかしながら、保育系への志願者は激減している。学生数の減少は、養成校の経営に直結する死活問題であって、とりわけ、地方の私学は、これまで地元の保育者養成を担ってきたという自負と私学経営との狭間で葛藤しているのが現状である。

筆者は、保育現場の“保育者がもっと必要だ”という声に対して、養成校の立場から言えば、保育者を供給しようにもなり手がいないという、このギャップこそが大きな問題だと考えていた。ただ、今日、いったいどれくらいの保育者が必要なか、あるいは不足しているのかについては、わかるようで実のところわからないのではないかとそれは、この需給関係を左右する要因があまりにも複雑だからである。そういう思いで、筆者は「保育者の養成において、地域ごとの綿密な計画性または見通しが必要で、その根拠となる数字を出すための調査も必要になります。」と当会のニューズレター第10号(2025年4月23日)で述べた。

筆者は福井県と共同で県内保育施設を対象に「人口減少社会における保育の提供のあり方に係る悉皆調査」を実施した(2024年6月)。調査では、「なぜ足りないのか」をはじめ、「採用はうまくいっているか」などを質問した。果たして質問項目の設計が妥当だったかどうかはわからないが、需給のギャップを何とか可視化しようと試みた調査ではあった。それを根拠に保育者対策の提言につなげたいという思いもあった。

当日の発表では、本大会のキーワード「共創」を踏まえ、調査の結果や自由記述を紹介しながら、保育者の安定的な確保に向けた、養成校・保育現場・行政との連携の必要性について私見を述べたいと思う。

#### 《講師紹介》



石川昭義(仁愛女子短期大学副学長／幼児教育学科教授)

1959年福井市生まれ。名古屋経済大学幼児保育学科、仁愛大学子ども教育学科教授、副学長を経て、2025年4月より現職。2022年より当学会の第2代会長を務める。

専門領域・研究分野は保育学、保育者養成教育。共編著に『保育者のためのキャリア形成論』(建帛社、2015年)等。福井県こども・子育て応援会議会長、越前市と坂井市のこども・子育て会議会長等。

## 鼎談

## 今後の保育者養成に求められること

## —保育職志望の中高生を増やし、新人保育者の離職を減らすために—

仁愛女子短期大学教授 増田 翼 氏  
 福井県健康福祉部児童家庭課課長 藤原 美由紀 氏  
 仁愛女子短期大学副学長・教授 石川 昭義 氏

## 《講演概要》

現在、日本の保育者養成校は、〈保育職志望者減少〉と〈人口減少社会の進行〉という二重の危機のなかで大きな岐路に立たされている。そもそも入学者確保の低迷は、各養成校の学生募集戦略の努力不足として理解されがちだが、実際には、日本型学歴社会による四年制大学志向の強まりや、大都市圏への進学を主とする県外流出（地元定着率の低下）といった、個々の養成校では制御しがたい構造的問題を抜きにしては語れなくなっている。こうした状況に対しては、二つの異なる方向からの取組によって改善を図らなければならない。

第一に、「保育」「保育職」「保育学」それぞれの魅力を社会（そして中高生）に向けて改めて発信し、積極的に理解を促す取組が挙げられる。保育に関する魅力を、どのような言葉やストーリーを用いながら伝えていくのか。その内容そのものについて、綿密な議論が必要となる。さらに、従来型の広報（主にオールドメディア）から、SNSを活用した情報発信、動画コンテンツの開発など、中高生の手元に魅力が届く方法への転換が不可欠だろう。これらを意識しなければ、保育職志望者の母数（割合）を広げていくは難しいと思われる。

第二に、人口減少社会における学生募集の限界を正面から見据え、〈競争〉を前提としたシステムそのものを見直すことも重要である。養成校（養成課程）を各法人の「私的財」として囲うのではなく、地域社会を支える「公共財」として捉え直し、行政も含めた関係者・団体が連携しながら、定員調整を議論したり、養成および研修等の人材育成に関わる役割を分担したりするなど、〈共創〉的な構造改革が求められているのではないだろうか。地域が一丸となって保育者を育て守り抜くという雰囲気醸成されれば、保育に関わる職場問題を地域課題・構造的課題として捉え直すことも可能となる（新人保育者の離職問題を、これまでのように単なる個別の事案として扱っては何も解決しない）。

本鼎談では、このような〈魅力発信の強化〉と〈共創への転換〉という二つの異なる取組に挑戦し続けている福井県の事例も交えながら、養成校・保育現場・行政がいかにか手を携え、持続可能な未来を実現していくかについて議論していきたい。

## 《講師紹介》



増田 翼（仁愛女子短期大学幼児教育学科 教授）

研究分野は、教育学・保育学。単著に「保育との出会い、そして保育者になっていくということ：中高生—養成校学生—現場保育者というプロセスにおける接続・適応の課題と展

望』『発達』184号（ミネルヴァ書房、2025年）、共著に『いまがわかる教育原理〔第2版〕』（みらい、2026年）、『保育の原理（新・保育実践を支える）』（福村出版、2018年）など。勝山市子ども・子育て支援審議会会長。



藤原 美由紀（福井県健康福祉部児童家庭課長）

福井大学教育学部を卒業後、平成4年度に福井県入庁。平成30年度子ども家庭課課長補佐、参事、健康福祉部政策参事を経て、令和6年4月

より現職。

文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会 教員養成部会 教職課程・免許・大学院課程 WG・幼児教育作業部会委員。

ポスター発表 A. 保育者の専門性、資質・能力、保育者養成における今日的課題など

13:45~14:45

座長: 小原 敏郎・椋島 香代

発表ID

PA1	実習生が鬼ごっこ指導に感じた課題とその解決に向けての検討	大阪成蹊短期大学	範 衍麗
PA2	保育者養成課程初年次学生が有する学習観・学習方略とスマートフォン利用の関連	金沢学院大学	紺谷 遼太郎
PA3	保育者養成校における実務家教員の担う役割	帝京平成大学	松田 聖子
PA4	保育者養成課程における社会人基礎力の形成過程の検討 - 入学から卒業までの段階的变化に着目して -	東京女子体育短期大学 東京女子体育短期大学 東京女子体育大学	○ 村石 理恵子 土井 晶子 池和田 克彦
PA5	「幼児と環境」を「保育内容(環境)の指導法」につなげるための講義の工夫	中村学園大学 静岡県立大学短期大学部 就実短期大学	○ 新井 しのぶ 甲賀 崇史 六車 美加
PA6	ICT活用による保育学生の動線を用いた リフレクション支援ツールの開発 I ~ アプリの開発 ~	共立女子大学 日本体育大学 共立女子大学 仙台白百合女子大学	○ 小原 敏郎 恒川 丹 井口 武俊 三浦 主博
PA7	保育者を目指す学生の実習を通じた気づき - 振り返りシートからみえる現状と課題 -	園田学園大学 園田学園大学 箕面学園附属幼稚園	○ 黒木 晶 中野 圭子 田窪 玲子
PA8	実習園における「昔話」体験 - 学生へのアンケート調査より -	ノートルダム清心女子大学 彰栄保育福祉専門学校 東海学園大学 盛岡大学短期大学部	○ 片平 朋世 野見山 直子 木本 有香 丸山 ちはや
PA9	保育者養成課程における性暴力防止教育の一授業実践 - 実習での学びを手がかりに -	沖縄女子短期大学 沖縄女子短期大学	○ 砂川 麻世 平田 美紀
PA10	保育者養成における社会人マナーの指導について 2 - 実習指導をする理由の分析と目指す方向性 -	大阪キリスト教短期大学 大阪キリスト教短期大学	○ 津村 樹理 西川 友理
PA11	学生の振り返りから捉える大学授業の教育実習への実践化プロセス	文京学院大学 文京学院大学	○ 渡辺 行野 椋島 香代
PA12	幼稚園教諭を目指す学生の学習観の学びほぐし - 自由保育の現場観察を通して -	創価大学	○ 舟生 日出男
PA13	「ふれ合い体験」の実践報告Ⅶ ~ 保育学生の参加園の選定動向に着目して ~	認定こども園モモ エンゼル保育園 ひよこ第3保育園 ベル・フラワー保育園 松が丘保育園	○ 神尾 美香子 奥田 昌喜 清水 淳一郎 小島 栄希 渡邊 高幸
PA14	保育者志望学生の運動指導観に関する研究	流通経済大学	高見 悠佑

ポスター発表 A. 保育者の専門性、資質・能力、保育者養成における今日的課題など

13:45~14:45

座長: 坪井 瞳・大森 弘子

発表ID

PA15	保育者の自己受容を高める園内研修会の成果と課題 - 保育者Aの語りから -	四国大学短期大学部	勝浦 美和
PA16	中堅保育者が離職しない理由に関する調査 - 継続勤務の背景にある職場環境や支援体制を探る -	豊田市市役所 愛知学泉短期大学 愛知学泉短期大学	○ 宇野 茂子 伊藤 照美 福井 千夏
PA17	保育者の保育観とその変容 - 子育て経験と保育経験に着目して -	敬道学園日本デザイナー芸術学院 椋山女学園大学	○ 館井 絵倫子 朴 信永
PA18	若手保育者の離職に関連する要因の検討	広島大学 広島大学	○ 伊藤 優 高橋 均

発表ID

PA19	保育者の経験年数による保育の魅力および悩みについて	椚山女学園大学 愛知学泉大学非常勤講師 愛知学泉大学 名古屋柳城短期大学	○ 朴 信永 田村 佳世 伊藤 久美子 後藤 由美
PA20	保育者の勤務継続意向を高める職場環境とは - やりがいい・ストレスの視点から -	佛光大学大学院博士後期課程	梅本 菜央
PA21	子どもたちの育ちを支える保育者たちの日常・II - 語り合いを通して「わたくしごと」が共有される過程に着目して -	東京成徳大学 鶴見大学短期大学部	○ 坪井 瞳 金 瑛珠
PA22	認可夜間保育施設における保育状況の考察 - インタビュー調査からの検討 -	関西福祉科学大学	大江 まゆ子
PA23	学生の就職意識と新任教育 - 養成校に求められる学びとは -	埼玉純真短期大学 埼玉純真短期大学	○ 加藤 房江 浅野 瞳
PA24	保育専門性と性格の関連	仁愛大学	渡辺 直人
PA25	「保育キャリアの共創(その1)」 - 学生主体での就職合同説明会の企画・立案・運営 -	東京家政大学 東京家政大学 東京家政大学	○ 小里 直通 細井 香 和田 明人
PA26	英国における保育者不足の現状とその対策の検討	京都文教大学	大森 弘子
PA27	保護者対応における現状と課題2	宮崎学園短期大学	久松 尚美
PA28	保育者養成校学生における就職希望と 保育者のキャリアイメージとの関連	日本体育大学	若尾 良徳

ポスター発表 A. 保育者の専門性、資質・能力、保育者養成における今日的課題など

15:00~16:00

座長: 大庭 三枝・吉永 早苗

発表ID

PA29	文化創造的学びから捉える台湾原住民幼児園の伝統文化教育 - 幼保一元化がもたらす保育者の専門性の新たな位相 -	大阪信愛学院大学	小川 圭子
PA30	「うた」の活動についての調査から見る保育者の意識 - 保育エピソードを通して -	豊岡短期大学 埼玉大学	○ 仲嶺 まり子 秋元 文緒
PA31	保育者養成課程における伝承遊びの必要性和意義 - 子どもの心と響きあう保育者像を願って -	関西学院短期大学 京都文教短期大学 立命館大学衣笠総合研究機構人間科学研究所	○ 森 知子 張 貞京 大橋 喜美子
PA32	自然とあそぶ保育の今 - 屋外体験の実態と課題 -	まつぼっくり保育園 白梅学園短期大学 白梅学園短期大学	○ 福島 千香子 浅野 涼太 佐藤 文
PA33	「幼児と環境」のポストヒューマン的転回の可能性 - 自然への感性を育む保育者養成を考える -	静岡県立大学短期大学部 中村学園大学 就実短期大学	○ 甲賀 崇史 新井 しのぶ 六車 美加
PA34	虫嫌いの学生がチョウの育ちの過程を知ることは 飼育への興味関心につながるか	中村学園大学	山本 翠
PA35	言語表現と造形表現を融合した活動事例Ⅲ -糸を用いた絵本制作ワークショップ-	中村学園大学 中村学園大学 中村学園大学	○ 倉原 弘子 野中 千都 渡邊 有美
PA36	幼保一元化に伴う保育者養成の現状 -台湾と日本の比較を通して-	玉川大学 玉川大学 玉川大学 玉川大学	○ 田甫 綾野 岩田 恵子 大豆生田 啓友 若月 芳浩
PA37	1960年代前半の広島県立保育専門学校における保育専門職の養成 - 実習記録と聞き取りから -	福山市立大学 倉敷市立短期大学 倉敷市立短期大学 就実短期大学	○ 大庭 三枝 小久保 圭一郎 木戸 啓子 三好 年江

発表ID

PA38	保育者養成課程における音楽学修の質的評価とフィードバックに関する研究	東海学院大学 東海学園大学	○ 小栗 祐子 横山 真理
PA39	ジェンダー・ダイバーシティに配慮した保育・保育者養成に関する文献研究-NAEYCを中心に	椚山女学園大学	伊藤 博美
PA40	子どもの市民性を支える保育① - 子どもの声を聞くことの意味 -	埼玉学園大学 関西学院大学名誉教授	○ 堀田 正央 日浦 直美
PA41	保育者養成教育としての音楽授業における「活動」の問題 -先行研究のレビューを通して-	名古屋大学大学院	永井 美由紀
PA42	技能としての音楽から呼応としての音楽へ - 保育者養成課程および保育士試験における音楽(実技)のありようを問う -	桜美林大学	吉永 早苗
PA43	韓国の幼保一元化推進における保育者養成課程の統合に関する考察	四天王寺大学短期大学部	韓 在熙

ポスター発表 A. 保育者の専門性、資質・能力、保育者養成における今日的課題など

15:00~16:00

座長: 直島 正樹・山田 秀江

発表ID

PA44	東京都の環境の異なる二つの地域における保育現場での環境とのかかわり - 中野区と青梅市の保育者に注目して -	白梅学園短期大学	辻 風花
PA45	保育者が必要と考えるインクルーシブ保育に関わる養成教育 -アンケート調査を踏まえて-	相愛大学 頌栄短期大学 宝塚さざんか福祉会	○ 直島 正樹 杉山 宗尚 辻井 善弘
PA46	保育所における午後の遊びについての保育者の乳幼児理解	たんぼぼ保育園 文京学院大学	○ 大野 伸治 梶島 香代
PA47	受講時期やカリキュラムの違いがインクルーシブ保育の実行可能性に与える影響	中部学院大学短期大学部	熊谷 享子
PA48	4歳児の哲学対話観察による保育者養成課程の学生の学び	神戸常盤大学	山田 秀江
PA49	職位別にみた保育者の食物アレルギー対応に関する意思決定プロセス	愛知学泉大学 非常勤講師 愛知学泉短期大学	○ 田村 佳世 福井 千夏
PA50	保育者の非意図的な物的環境の構成に内在するパターンの要素	中国短期大学	福澤 惇也
PA51	架け橋期における保幼小接続推進に関する研究	常磐短期大学 鎌倉女子大学短期大学部	○ 宗次 直巳 赤木 拓人
PA52	保育観の変容が意味するものは何か -保育者の語りからみる保育所・子ども・保護者の関係に着目して-	高崎健康福祉大学	富田 純喜
PA53	小学校教諭が幼児教育へ興味をもつきっかけと背景 - 校種の違う 2名の教員への半構造化インタビューをもとに -	日本女子大学 日本女子大学大学院家政学研究科	○ 請川 滋大 朝倉 香也代
PA54	公開保育に参加する意義について ~参加者アンケートから見えること~	中村学園大学	野中 千都
PA55	医療的ケア児を受け入れた保育・幼児教育の実態 - 現場職員が語る地域療育連携や養成教育 -	大阪健康福祉短期大学 松江キャンパス	舟越 美幸
PA56	子どもの姿を可視化する保育記録の省察的機能 - 保育者へのフォローアップ・インタビューを通じた変容プロセス -	東北福祉大学	上村 裕樹
PA57	乳児親子の子育て世代と大学生の交流における学びと次世代育成支援の検討(1)-KHcoder 3分析による大学生の学びの視点から-	玉川大学 玉川大学	○ 上田 よう子 青木 雄子

ポスター発表 B. 保育実践研究、保育実践現場との共同研究など

13:45~14:45

座長: 和田 幸子・小寺 玲音

発表ID

PB1	保育者養成課程における実践的学びの効果 -親子ふれあい活動を通じた発達理解と関わりの実践-	九州産業大学	三原 詔子
PB2	知的障害児を対象とするムーブメント教育・療法を応用した 運動遊びにおける生理的・病理的課題	四條畷学園短期大学	金川 朋子
PB3	保育現場における保育者の自然体験の場の不足感に 影響を与える要因	白梅学園短期大学 まつぼっくり保育園 白梅学園短期大学 白梅学園短期大学	○ 浅野 涼太 福島 千香子 佐藤 文 佐藤 厚
PB4	多文化共生保育における問題と課題 - 質問紙調査の自由記述から得られたデータを中心に -	小田原短期大学 小田原短期大学	○ 山本 陽子 大浦 賢治
PB5	ハンガリーの保育の特徴	京都光華女子大学	和田 幸子
PB6	保育所における1・2歳児の遊び場面に関わる保育者の迷いや困惑と その解決の過程 -室内における汽車遊びの場面の分析-	和洋女子大学	小山 朝子
PB7	幼児期における哲学対話に関する研究の動向と課題	神戸常盤大学	京極 重智
PB8	誰でも楽しめるスポーツ「ボッチャ」の魅力と今後の展望(Ⅲ) - 保護者と共に展開する保育実践 -	新潟青陵大学短期大学部	上原 由美
PB9	沖縄県内の幼児施設における砂場環境に関する研究 - サンゴ由来砂の特性と幼児の遊び環境に関する文献的検討 -	沖縄キリスト教短期大学 福岡女学院大学	○ 照屋 建太 坂田 和子
PB10	「楽しく食べる子どもに」を支える保育についての考察(2) - 「種」を媒介とした探究活動が4歳児の食への興味関心に与える影響 -	関西女子短期大学	小寺 玲音
PB11	保育における「歌」と「リズムカルな言葉」の混交・切替 - その様態に表出する保育者の専門性 -	こども教育宝仙大学 東京教育専門学校	○ 葛西 健治 志田尾 恭子
PB12	保育における英語の歌あそびの実践1 - 言葉が持つ音の美しさと異文化理解の視点から -	小田原短期大学	前田 奈緒
PB13	異年齢保育における給食から午睡までの保育室の環境構成	比治山大学 比治山大学	○ 本岡 美保子 田崎 慎治
PB14	保育課題の可視化から学生の学びへの接続 - 大学・保育現場・学生との相互連携養成モデル -	尚綱大学短期大学部 尚綱大学短期大学部	○ 坂本 健 増淵 千保美
PB15	English Timeが2歳児に与える影響 - 事例研究からの検討 -	北海道文教大学 あいおい子ども園	○ 小林 美花 梅原 健吾

ポスター発表 C. 保育実習・教育実習、実習指導、対人援助職のキャリアデザインなど

13:45~14:45

座長: 和田 明人・源 証香

発表ID

PC1	短大2年間の教育・保育実習指導	安田女子大学 安田女子短期大学 安田女子短期大学	○ 中村 涼 橋本 信子 矢野 光恵
PC2	保育・教育実習における指導保育者と実習生の対話の実態: 指導保育者へのインタビュー調査から	帝京科学大学 帝京科学大学 帝京科学大学	○ 富岡 麻由子 飯泉 祐美子 今西 ひとみ
PC3	保育実習・教育実習の振り返り記述の質的分析に基づく ルーブリック開発の試み	南九州大学 南九州大学	○ 西田 雅美 藤本 朋美
PC4	教育・保育実習におけるドキュメンテーション的な 記録の指導プロセス - 短期大学での段階的指導法の構築 -	安田女子短期大学 安田女子大学 安田女子短期大学	○ 橋本 信子 中村 涼 矢野 光恵

発表ID

PC5	指導担当保育者向け実習教育チェックリスト開発の探索的試み	名古屋学芸大学 名古屋市立大学	○加藤 望 上田 敏丈
PC6	保育士養成における「実習前評価システム」の開発Ⅱ -改良と新たな課題-	帯広大谷短期大学	阿部 好恵
PC7	幼児教育実習を対象とした研究題目の語彙・構成的特徴の分析	飯田短期大学 飯田短期大学 飯田短期大学	○波多 彩花 隣谷 正範 菱田 博之
PC8	実習日誌における負担感と省察の両立に向けた園・養成校による連携の検討	和洋女子大学 彰栄保育福祉専門学校 富山国際大学	○田島 大輔 山梨 夕子 本江 理子
PC9	保育実習の質の向上に向けた保育現場と養成校の協働の在り方に関する研究 -記録の ICT化がすすむ現場の実情と実習記録に関する調査から-	白梅学園短期大学 白梅学園短期大学 白梅学園大学子ども学研究所	○小松 歩 源 証香 松永 静子

ポスター発表 C. 保育実習・教育実習、実習指導、対人援助職のキャリアデザインなど

15:00~16:00

座長: 近藤 千草・林 悠子

発表ID

PC10	エピソード記録における学生の視点に関する調査 -5領域に着目して-	小田原短期大学 小田原短期大学	○西元 咲文 近藤 正子
PC11	保育実習日誌の電子化による学生への影響の研究 -保育実習日誌への訂正と評価を通して-	帝京科学大学 帝京科学大学 帝京科学大学	○松山 寛 呂 曉彤 三石 美鶴
PC12	先行研究から見る保育者養成校生の進路選択に関する一考察	大阪青山大学	○林 富公子
PC13	責任実習における造形表現題材の選定プロセスと課題 -学生への幼稚園実習事後インタビューを通して-	常葉大学	○畠山 智宏
PC14	シュタイナー幼稚園における教育実習を通じた学びの実態に関する考察 -実習日誌の分析を通して-	目白大学	○近藤 千草
PC15	保育学生の実習を通じた不安感の変容に関する一考察	埼玉純真短期大学 埼玉純真短期大学 埼玉純真短期大学 埼玉純真短期大学	○片口 桂 浅野 瞳 眞柄 絵里 塚越 亜希子
PC16	経験と省察による保育者像の具体的変容	横浜高等教育専門学校	○新井 貴子
PC17	保育を学ぶ学生の現場体験の意義について	奈良学園大学	○林 悠子
PC18	保育実習前の大学生がもつ保育観の実態	中村学園大学	○黒江 絵里

ポスター発表 D. 授業実践研究など

13:45~14:45

座長: 山本 直樹・鈴木 えり子

発表ID

PD1	保育者養成校の学生が手遊びを学ぶ意義 -授業内での発表と記録より-	静岡県立大学短期大学部 駒沢女子短期大学	○菊地 篤子 市野 繁子
PD2	保育学生による絵本の読み聞かせのループリック作成とその効果	郡山女子大学短期大学部	佐々木 郁子
PD3	保育者養成における表現活動「静止画」の活用 -体験後の学生の内省記述の分析から-	長野県立大学	山本 直樹
PD4	保育力の向上を目指す取り組み -手袋シアターを通して-	華頂短期大学	鈴木 えり子
PD5	保育系志望学生の素材選択傾向 -制作課題アンケート調査を基に-	中村学園大学 中村学園大学	○渡邊 有美 倉原 弘子
PD6	認定絵本士養成講座の教育的効果 -学修記録からみる学生の変容-	北翔大学短期大学部 北翔大学短期大学部	○角田 裕哉 菊地 達夫

発表ID

PD7	架け橋期教育としての非言語型美術鑑賞	大阪樟蔭女子大学 尚綱大学短期大学部 尚綱大学	○ 栗川 直子 坂本 健 森 みゆき
PD8	「音を聴く」ことから始める音楽教育 - 聴診器・図形楽譜・楽器表現を経て導く「音さがし」活動 -	常磐大学	鈴木 範之
PD9	写真撮影活動による体験的学修の実践と分析 -子ども視点の疑似体験がもたらす環境理解の変容-	愛知学泉大学	伊藤 久美子
PD10	子どもの視点に立った音・音楽遊びについての学生の学びの検討	ノートルダム清心女子大学	藤掛 絢子
PD11	令和7年度『トキガクフェスタ』の実践報告 ~少人数での活動を通して~	大阪常磐会大学 大阪常磐会大学 大阪常磐会大学	○ 笠川 武史 丸井 理恵 加藤 達雄
PD12	保育実習準備としての手袋シアター製作が学生の实習不安軽減 および保育技術習得に及ぼす効果	大阪成蹊短期大学	樋口 奈生

ポスター発表 D. 授業実践研究など

15:00~16:00

座長: 佐々木 隆宏・三浦 主博

発表ID

PD13	「乳児の運動発達の学びに関する一考察」 -大学生の「0歳の体幹づくり」ワークの学びを通して-	一般社団法人WARAリズム普及委員会 四條畷学園短期大学	○ 落田 順子 金川 朋子
PD14	実践から理論への試み - 保育園児を大学へ招く「保育の計画と評価」の一事例 -	星槎道都大学	吉江 幸子
PD15	マルチモーダル生成 AIを用いた絵本の読み聞かせのフィードバック - 熟達者のもつ手続き的知識を基にしたルーブリックの利用 -	東京家政大学 郡山女子大学短期大学部	○ 佐々木 隆宏 佐々木 郁子
PD16	養成校における遊びなおし③ - 学生への素材経験調査から -	常磐短期大学	木村 由希
PD17	保育者養成における栽培活動の指導 -園芸療法を活用した寄せ植えを体験した学生の学びを通して-	兵庫県立淡路景観園芸学校	森 晴美
PD18	保育学生の地域連携活動への参加が学習に及ぼす効果に関する研究 - 運動遊びを中心とした地域の子どものとの交流を通して -	目白大学	西田 希
PD19	保育者養成校における運動指導場面でのマイクロティーチングの試み	名古屋柳城短期大学	菊池 理恵
PD20	教育・保育施設等における事故情報データベースの記述疫学的レビュー -直近5年間における教育・保育施設6類型の事故報告情報の推移-	淑徳大学	清水 将之
PD21	「保育・教職実践演習」における教材研究をテーマとした学修について -学内附属幼稚園の物的環境に着目したフィールドワークにおける 学生のレポート分析から-	十文字学園女子大学 十文字学園女子大学	○ 横井 紘子 土屋 由
PD22	保育者養成短期大学におけるICT活用の試み ~iPadを活用した授業実践~	埼玉純真短期大学 埼玉純真短期大学 埼玉純真短期大学 埼玉純真短期大学 埼玉純真短期大学	○ 山田 耕平 小川 弥輪 瀬戸 奏 眞柄 絵里 三友 玲子
PD23	関東地方の保育者養成校における保育関連科目の 学習意欲向上に関する研究 -栃木県の保育者養成校アンケートを通して-	東京純心大学 草苑保育専門学校 駒沢女子短期大学 高崎健康福祉大学 育英大学 創価大学 小田原短期大学 育英大学	○ 田中 路 土井 美紗緒 市野 繁子 佐々木 典彰 渡辺 一洋 戸田 大樹 西元 咲文 田中 卓也
PD24	保育者養成大学所属学生の身体及び生活習慣に関する一考察	川口短期大学	小山内 弘和
PD25	学年間往還型授業による保健指導の省察的学習過程の検討 - インストラクショナルデザインを用いたメタ認知促進の試み -	花園大学	諏澤 宏恵

ポスター発表 E. 子育て支援、地域連、高大連携など

13:45~14:45

座長: 杉山 宗尚・内藤 知美

発表ID

PE1	保育者の視点から見る父親の育児	豊橋創造大学短期大学部	鈴木 順子
PE2	「つながるベルリン」:近隣・地区・多世代ハウスの機能比較 - 歴史・政策・現場から読み解くベルリンのコミュニティ拠点 -	千葉明德短期大学	池谷 潤子
PE3	令和 6年能登半島地震における被災地特有の保育活動と そのあり方に関する考察(2)	育英大学	田中 卓也
PE4	児童虐待死と人工妊娠中絶の現状	頌栄短期大学 宝塚さざんか福祉会	○ 杉山 宗尚 辻井 善弘
PE5	過疎地域の乳幼児を育てる母親が子育て支援につながる要因 - アウトリーチ支援を受け入れるまでの母親の想いに着目して -	和歌山信愛大学 名古屋柳城短期大学	○ 森下 順子 鈴木 裕子
PE6	地域の子育て支援拠点等の活動のさらなる充実に向けて - 子育て支援者の自己研鑽の現状に着目して -	和歌山信愛大学 和歌山信愛大学	○ 前島 美保 森下 順子
PE7	大学内子育て支援施設における「保護者の学び」に関するニーズの検討	田園調布学園大学大学院 田園調布学園大学大学院	○ 内藤 知美 横尾 暁子
PE8	障害児支援施設における父親支援の現状 -インタビュー調査から-	京都光華女子大学	松本 しのぶ
PE9	児童精神科受診を支える保育者支援とアウトリーチの現状と課題 - 精神保健福祉士の役割を踏まえたレビュー -	川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学	○ 松本 優作 中川 智之 森本 寛訓 岡正 寛子 種村 暁也
PE10	気になる子どもの実際 - 保護者のアンケート回答結果の視点から探る -	桜美林大学	染谷 雅広

ポスター発表 E. 子育て支援、地域連、高大連携など  
F. 保育者研修、キャリアアップなど

15:00~16:00

座長: 進藤 容子・鎮 朋子

発表ID

PE11	保育者養成を行う大学における子育て支援活動について - 子育てひろば・こようめの実践から -	梅花女子大学 梅花女子大学 梅花女子大学 梅花女子大学 梅花女子大学 梅花女子大学	○ 寺本 尚美 井元 真澄 鎮 朋子 藤井 奈津子 大西 隆弘 花房 ナオミ
PE12	生成 AIによる子育て支援相談ロールプレイ演習の教育的効果分析	千葉明德短期大学	小木曾 友則
PE13	保育士養成校が地方自治体及び中学校・高等学校と連携して行う 入学者確保のための取組	安田女子大学 広島文化学園大学 福山平成大学	○ 西川 ひろ子 合原 晶子 中原 大介
PE14	保育者養成カリキュラムにおける「地域」の位置づけ -保育士養成課程の教科目・教職課程コアカリキュラムの分析を中心に-	埼玉県立大学 高崎健康福祉大学	○ 田口 賢太郎 富田 純喜
PE15	学生の保護者対応力を育む子育て支援活動のあり方 - 小規模保育所との連携活動より -	東海学園大学	木本 有香
PF1	学生の視点を導入した絵本活用による 保育者の感覚的な語り合いの質の変容	金沢星稜大学	三好 伸子
PF2	新任保育者の育成研修	修文大学短期大学部	吉澤 幸
PF3	韓国の保育教師の海外研修に対する考えと研修ニーズ -日本での短期保育研修参加者を対象とした振り返りアンケートから-	名古屋柳城女子大学 中部大学 和洋女子大学	○ 林 韓燮 蘇 珍伊 権 法珠
PF4	STEAM教育の視点を取り入れた保育者の食育実践力向上教育プログラム の構築(1)-「S・T・M」教材パッケージの考案に向けて -	相愛大学	進藤 容子

発表ID

PF5	子どもの姿に基づく保育をどのように共有・継承していくか -ある園でのエピソード記録にもとづくクラス会議と 園内研修の試みをもとに-	山口大学	中島 寿子
-----	---	------	-------

ポスター発表 G. 保育者養成の岐路に対応した養成校の取り組みなど

15:00~16:00

座長: 細井 香・松島 京

発表ID

PG1	学生が課外活動に参加する意義 - 活動の成果と価値 -	姫路大学	藤重 育子
PG2	「個別的な配慮を必要とする子ども」に対応できる 保育者養成教育内容の検討- 医療的ケア児の受け入れを中心に -	大和大学白鳳短期大学部 相愛大学	○ 辻本 有里恵 直島 正樹
PG3	保育者養成の岐路に対応した養成校の取り組み 養成校と行政機関及び幼稚園・保育園との連携をととして	広島文化学園大学 広島文化学園短期大学	○ 合原 晶子 柞磨 昭孝
PG4	地域連携型『コベカツ』による保育者育成エコシステムの創出 - 中学生・大学生・養成校をつなぐ新しいキャリア形成支援の試み -	神戸常盤大学	田中 達也
PG5	学生・教員・職員がともにつくる広報活動の実践 白梅盛り上げ隊！による活動実践を通して	白梅学園短期大学	佐藤 厚
PG6	保育者養成における協働的学習共同体の形成 - STEP Project 実践の分析 -	神戸常盤大学 神戸常盤大学	○ 大城 亜水 深川 幹
PG7	大阪市私立保育連盟との協働に基づく中高生に向けた 保育の魅力発信に関する実践活動	相愛大学	松島 京
PG8	保育者養成校における楽器指導の再検討 -ピアノ偏重の見直しと学生ウェルビーイング-	白百合女子大学	川口 潤子
PG9	保育者・教員志望学生共通科目を通じた栽培活動の実践	神戸常盤大学 神戸常盤大学 神戸常盤大学 神戸常盤大学	○ 深川 幹 中西 利恵 大森 雅人 山田 秀江
PG10	「保育者の養成と育成の架け橋を探る共同学究(その1)」 - 基本的枠組み -	東京家政大学 東京家政大学 東京家政大学	○ 細井 香 小里 直通 和田 明人

# 諸 規 程

# 大会研究発表に関する規程

## (本規程の目的)

第1条 本規程は、日本保育者養成教育学会の大会において会員が研究発表を適正に行い、正式発表と認定されるための条件および規則を定める。

## (発表申し込みとその受理)

第2条 大会での発表を申し込む者は、正会員であり、かつ所定の期日までにその年度の年会費を納入済でなければならない。ただし、本学会との学術交流協定に基づき発表する者はその限りではない。

2 大会で発表する者は、以下の条件を満たさなければならない。

- (1) 大会で発表する者は、筆頭・連名を問わず、大会実行委員会が指定する期日までに発表申し込みをしなければならない。
- (2) 大会で発表する者は、筆頭・連名を問わず、大会参加費を大会実行委員会が指定する期日までに納入しなければならない。
- (3) 筆頭発表者は大会実行委員会が指定する期日までに要旨集の原稿を提出しなければならない。
- (4) 上記の条件が満たされない場合は、発表申し込みは受理されない。また、受理が取り消される。
- (5) なお、特別に配慮すべき事情があると会長が認める場合は、事前に大会実行委員会に申し出て、その許可を得ることにより、期日後に納入することができる。

## (発表研究の条件)

第3条 発表研究は、大会での発表時において未発表であるものに限る。すでに印刷製本して公表された研究(単行本、学会誌、紀要[大学、研究会、園等]、雑誌等に発表されたもの)は、当学会において発表することはできない。

## (発表に関する制約)

第4条 筆頭発表は、口頭発表・ポスター発表のいずれかで1人1件に限る。ただし、連名発表者となる場合は、筆頭発表を含めて口頭発表・ポスター発表を合わせて3件まで認められる。同一研究グループ内で発表者を分散させるなどして、複数の発表をする場合も、実質上同一研究グループによる研究である限り、3件を超える発表はできない。

2 同一の内容と認められる発表については、2件まで認められる。

## (発表の成立条件)

第5条 ポスター発表は、「ポスターでの発表」「質疑応答への参加」「要旨集への要旨の掲載」の全ての条件を満たすことで正式発表と認められる。また、発表者は「発表説明責任時間」の間、自分のポスター掲示場所に在席していなければならない。かつ、ポスターは所定の時間掲示されなければならない。

- 2 口頭発表は、「口頭での発表」「討論への参加」「要旨集への要旨の掲載」の全ての条件を満たすことで正式発表と認められる。また、発表者は分科会終了前に退席することはできない。
- 3 発表者は、分科会開始前に分科会会場での受付を済ませ、その会場にて待機しなければならない。
- 4 研究発表の際、筆頭発表者は必ず分科会に出席しなければならない。
- 5 研究発表の際、原則として連名発表者全員が分科会に出席しなければならない。
- 6 筆頭発表者がやむをえない理由で発表ができなくなった場合、事前に大会実行委員会の承認を得ることで、連名発表者（他の発表で筆頭発表者となっていない者）が筆頭発表者となることができる（筆頭発表者の交代）。

（研究発表の認定と取り消し）

- 第6条 すべての研究発表の終了後、会長の推薦を経て理事会の承認を得た若干名の委員で構成された研究発表認定委員会が、すべての発表について前条の規定を遵守しているか否かを確認する。その結果、前条の規定を遵守していると認められた発表のみ、正式発表と認定する。前条の規定に反することが確認された発表は「発表取り消し」とされる。
- 2 筆頭発表者が無断で欠席した場合は「発表取り消し」とされる。事前に欠席を届け出た場合は「発表取り下げ」となる。
  - 3 「発表取り消し」と「発表取り下げ」については、公示するとともに、当該者に対して通知することとする。

（改廃）

第7条 本規程の改廃は理事会が行う。

◇付 則

本規程は、平成30年12月1日から施行する。

# 大会における座長および分科会運営に関する規程

(本規程の目的)

第1条 本規程は、日本保育者養成教育学会の大会における分科会の座長を選出する方法および分科会運営の仕方について定める。

(座長の選出と依頼)

第2条 各分科会には、適宜、若干名の座長をおく。

- 2 座長は、原則として本学会会員で、大学等における教授または准教授職相当の会員を当てる。
- 3 座長候補者は、大会実行委員会が選出し、日本保育者養成教育学会会長が文書をもって依頼する。

(ポスター発表分科会の運営)

第3条 座長および大会実行委員会はポスター発表分科会の運営に関わる次の業務を行う。

(1) 座長の業務

- ①座長は、発表者の発表の仕方に不適切な点がある場合は、適宜注意をし、ルールにかなった発表が行われるように努める。
- ②参加者からの質問が少ない場合には、座長は適宜発表者に質問するなどして、参加者同士の質疑応答が活発になるように配慮する。
- ③座長は、発表者および参加者に礼節を欠く言動や分科会の運営を妨げる言動が見られるときには適宜注意し、分科会が研究交流の場として相応しいものとなるように努める。
- ④座長は、発表が大会研究発表に関する諸規程にかなっているかを確認し、分科会終了後に研究発表認定審査会に報告する。

(2) 大会実行委員会の業務

- ①大会実行委員会は、発表者の出席を確認し、その結果を座長に報告する。
- ②大会実行委員会は、発表の仕方についてルール違反がないか監督し、結果を座長に報告する。

(口頭発表分科会の運営)

第4条 座長および大会実行委員会は口頭発表分科会の運営に関わる次の業務を行う。

(1) 座長の業務

- ①座長は、分科会開始前に、分科会の運営の仕方および発表の成立条件について発表者および参加者に説明する。
- ②座長はプログラムに従い、分科会の司会進行を行い、発表者に不平等が生じないように努める。
- ③発表者の欠席および発表の取り下げがある場合も、座長はプログラムに明記された時間通りに分科会を運営する。
- ④座長は、発表者の発表の仕方に不適切な点がある場合は、適宜注意をし、ルールにかなった

発表が行われるように努める。

- ⑤参加者からの質問が少ない場合には、座長は適宜質問をするなどして、議論が深まるように配慮する。
- ⑥座長は、発表者および参加者に礼節を欠く言動や分科会の運営を妨げる言動が見られるときには適宜注意し、分科会が研究交流の場として相応しいものとなるように努める。
- ⑦座長は、発表が大会研究発表に関する規程にかなっているかを確認し、分科会終了後に研究発表認定審査会に報告する。

(2) 大会実行委員会の業務

- ①大会実行委員会は、発表者の出席を確認し、その結果を座長に報告する。
- ②大会実行委員会は、発表時間を管理するなど、座長の司会進行をサポートする。

(改廃)

第5条 本規程の改廃は理事会が行う。

附 則 本規程は、平成30年12月1日から施行する。

日本保育者養成教育学会 第10回研究大会  
広告掲載・出展のご芳名

株式会社北大路書房 様

株式会社かせき 様

富士フイルムシステムサービス株式会社 様

教育情報出版 様

株式会社萌文書林 様

社会福祉法人全国社会福祉協議会 様

学会を開催するにあたり、多大なご支援をいただきました。  
心より感謝申し上げます。

2026年2月

日本保育者養成教育学会  
会長 石川 昭義

# 北大路書房

〒603-8303  
京都市北区紫野十二坊町12-8  
☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393  
<https://www.kitaohji.com> (価格税込)

## よい保育とは何か

—技術的実践から倫理的・政治的実践へ— グニラ・ダールベリ, ピーター・モス著 浅井幸子, 佐川早季子監訳 A5・280頁・定価4620円 「保育の質評価」を中核とする現代保育における支配的言説に警鐘をならし、議論のオルタナティブを提供。倫理的・政治的実践であるべき保育が技術的実践に還元されている現状を問い直す。「保育の質」のさらに先へ。

## 保育の場を主体として共に生きる

—子どもの「心の動き」をエピソードで描くことから見えてくること— 鯨岡峻著 A5・264頁・定価2640円 「関係発達論」や「エピソード記述」等実践研究にも影響を与え続けてきた鯨岡氏。これまでの理論に「自己態勢」という新たな概念を加え「いま、ここ」を生きる子どもの心の動きを捉えることの重要性を具体的なエピソード記述から描き出す。

## 「愛と知の循環」としての保育

—世界を愛することを学ぶ— 無藤 隆著 四六・432頁・定価3300円 保育とは「愛と知の循環である」——保育の場とは、子どもたちが周りの世界に関わり、「愛と知」という情動と知性が循環していく中で生成されていく。その場において保育実践を見つめ、実践者と協働し実践志向の研究を重ねる中で到達した思考の数々。無藤隆の集大成としての保育論。

## レヅジョ・エミリアのアートと創造性

—保育におけるアトリエの役割と可能性を探る— ヴェア・ヴェッキ著 森 真理, 刑部育子監訳 A5・368頁・定価4620円 アトリエリスタとして、レヅジョ・エミリアの実践を支え続けてきたヴェア・ヴェッキ氏が歩んできた道のりをもとに、アートや創造性が保育にいかに関与し得るかについて、自身の回想と仲間たちとの対話を通して探究する。

### 持続可能な社会をめざす0歳からの保育

井上美智子, 登美丘西こども園著 定価2420円

### デジタル社会の 子どもの育ちを支える 保育内容 健康

田口喜久恵編著 定価2640円

### 発達心理学15講

高橋一公, 中川佳子編著 定価2420円

### 北欧スウェーデン発 科学する心を育てるアウトドア活動事例集

C. プレイジ著/西浦和樹編訳 定価2420円

### 社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」

無藤 隆, 古賀松香編著 定価2530円

### 「気になる」子どもの社会性発達の理解と支援

本郷一夫編著 定価1980円

### 子どもの育ちをとらえるラーニング・ストーリー

穴戸良子, 三好伸子著 定価2420円

### はじめて学ぶ保育原理 [新版]

吉見昌弘, 斎藤 裕編著 定価2420円

### 行列のできる児童相談所

井上 景著 定価2530円

新刊

## 演習 子育て支援

実践から深める支援のまなざしと専門性

編著 隣谷正範

ISBN 978-4-909378-83-5 B5判・192頁 カラー口絵付  
定価 2,640円 (税込)

## ?〈ハテナ〉から考える 乳児保育Ⅰ・Ⅱ

編著 入江慶太

ISBN 978-4-909378-84-2 B5判・248頁 カラー口絵付  
定価 2,640円 (税込)

表現者を育てるための

### 保育内容「音楽表現」

—音遊びから音楽表現へ—

編著 石井玲子 B5判・定価 2,530円 (税込)

資質・能力を育む

### 保育内容 領域 人間関係

—子どもにとっての人間関係とは—

編著 齊藤 崇 B5判・定価 2,200円 (税込)

哲学的な考えをいかに

### 新・教育原理

—教育と保育を考える—

編著 伊藤潔志 B5判・定価 2,310円 (税込)

マンガと事例でポイントをつかむ

### 幼児教育・保育方法論

編著 開 仁志 B5判・定価 2,310円 (税込)

### 保育の心理学

—子ども理解をケアにつなげる—

編著 串崎幸代 B5判・定価 2,310円 (税込)

### 新・子どもの食と栄養 [第2版]

編著 今津屋直子・久藤麻子 B5判・定価 2,200円 (税込)

### 子ども家庭支援論

—子どもを中心とした家庭支援—

編著 七木田敦・上村眞生・岡花祈一郎  
A5判・定価 2,090円 (税込)

指導法もいっしょに学ぶ

### 保育内容「言葉」 [第2版]

編著 浅井拓久也 B5判・定価 2,090円 (税込)

哲学的な考えをいかに

### 新・保育原理

—保育の未来を考える—

編著 伊藤潔志 B5判・定価 2,300円 (税込)

マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ

### 保育内容総論 [改訂新版]

編著 開 仁志 B5判・定価 2,497円 (税込)

子どもの発達の連続性を支える

### 保育の心理学 [第2版]

編著 浅井拓久也 B5判・定価 2,530円 (税込)

実践事例を通して具体的ななかかわりを学ぶ

### 保育現場における特別支援

編著 松井剛太・七木田敦 B5判・定価 2,200円 (税込)

### 新・保育内容「環境」

ラーニング・ストーリーで綴る学びの記録

編著 永瀬泰一郎 A5判・定価 2,200円 (税込)

### 新・保育の計画と評価

—理論と実践をつなぐ保育カリキュラム論—

編著 前田和代 B5判・定価 2,200円 (税込)

あなたとともに考える

### 子ども家庭福祉

こどもまんなか社会を実現するために

編著 渡邊慶一 B5判・定価 2,420円 (税込)

### 新しい時代の保育者論

編著 須藤麻紀 A5判・定価 2,200円 (税込)

〈子どもの遊びと児童文化をつなぐ〉

### 子どもの文化

理論と実践から学び、考えよう

編著 宮野 周 B5判・定価 2,200円 (税込)

### 考え、実践する施設実習

編著 浦田雅夫 B5判・定価 2,530円 (税込)

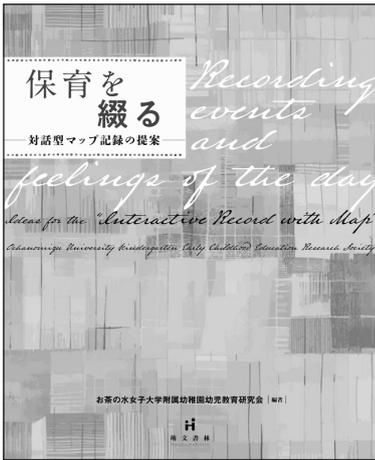
発行・販売  
K 教育情報出版

〒557-0055 大阪市西成区千本南 1-18-24  
TEL 06-6658-8741 (代) 06-6651-5012 (編集部)  
FAX 06-6652-2928



info@kyoiku-joho.jp  
<http://www.kyoiku-joho.jp>

枠もなく、要素にも分解されない、対話を重視した記録とは



# 保育を綴る

—対話型マップ記録の提案—

*Recording events and feelings of the day: Ideas for the "Interactive Record with Map"*

お茶の水女子大学附属幼稚園幼児教育研究会 編著

A4変形判オールカラー(マルチ言語:日本語/英語) 122頁 2640円

978-4-89347-451-3

対話型マップ記録の誕生と考察(The Birth and Practice of creating an "Interactive Record with Map")/記録のいろいろ(Various "Interactive Records with Map")/書くことがおもしろくなる—対話の時間—("Writing is fun": Dialogue Time)/これまでの記録の発信と記録の意義(Significance of "Interactive Record with Map")

多様な視点から子どもを論じる好評学術誌。第13号発刊!



# 子ども学 第13号 2025

編集: 白梅学園大学・白梅学園短期大学子ども学研究所「子ども学」編集委員会 発売: 萌文書林

B5判 228頁 1980円 978-4-89347-403-2

- 巻頭特集 子ども・子ども学トピックス 2025 見られる身体……………大出春江
- 特集1 ポストヒューマニズムと子どものエージェンシー……………カリン・ムリス著, 小玉重夫訳/小林夏美/岡南愛梨
- 特集2 構造とケアの現代的課題に迫る……………内海新祐/武田信子
- 特集3 子どものころとからだ……………野井真吾/松本俊彦

### ◆◆ 好評既刊 ◆◆

日々のレポートから卒論まで書き方を図解で学ぶ  
**図解で学ぶ保育+教育**

レポート・論文の書き方

井戸ゆかり・横山草介・紺野道子 著  
A5判2色刷 160頁 2420円 978-4-89347-449-0

子どもがいきいきと活動できる指導案を立てよう

**現場保育者が実践事例から考えた**

**部分実習指導案集**

山本陽子・富永田佳 編著  
B5判 148頁 1980円 978-4-89347-454-4

児童文化財を活用した保育実践のため

**保育実践に生きる「言語表現」**

—児童文化財活用のエッセンス—

馬見塚昭久・清家弘子 著  
B5判カラー 152頁 2200円 978-4-89347-453-7

保育学生(者)向け「情報リテラシー」最新テキスト

**保育者のためのパソコン講座**

Windows11 Microsoft365・Office2024/2021対応  
阿部正平・阿部和子・二宮祐子 著  
B5判2色刷 412頁 2420円 978-4-89347-446-9

障害の当事者、保護者の声を聴いて教育・保育の学びを深めよう

**保育者・教育者になる人のための**

**特別支援教育 —当事者の声を聴く—**

小林芳文 監修・著 武藤篤訓 著者代表  
B5判 276頁 2200円 978-4-89347-435-3

子どもと造形について深く理解し、保育実践に活かそう

**知識を広げ、保育実践に活かす**

**表現(造形)**

吉田収 著  
B5判カラー 148頁 2200円 978-4-89347-439-1



株式会社 萌文書林

HOBUNSHORIN

## 2026年春 出版案内

※表示価格は税込定価

〒113-0021 東京都文京区本駒込6-15-11 TEL 03-3943-0576 FAX 03-3943-0567

# 保育を学ぶすべての方々に 現場の方の知識のアップデートやキャリアアップの学びに最適!

保育士試験受験者・保育士養成の学生のためのテキスト

## 最新 保育士養成講座

「最新 保育士養成講座」総括編集委員会 編  
B5判/定価2,090円~2,200円(税込)

10巻

### 総括編集委員

(所属・肩書は2025年11月現在)

柏女 霊峰 淑徳大学名誉教授 (委員長)  
秋田喜代美 学習院大学教授  
岩田 力 学校法人渡辺学園常務理事  
北野 幸子 神戸大学大学院教授  
山縣 文治 大阪総合保育大学特任教授

### point 01 50年の信頼と実績

前身の「保母養成講座」の創刊から50年。常に最新の保育を取り巻く環境と向き合ってきた信頼と実績が、高く評価されています。

### point 02 最新データを網羅

福祉諸制度の改正や最新統計、保育士試験の出題範囲を網羅し、保育士をめざす方、保育士として働く方の力強いパートナーになっています。

### point 03 エキスパートによる執筆

医療・保健・福祉・教育などの各関係分野で活躍する学者・研究者、行政関係者など約100名が執筆しています。



- 第1巻 保育原理
- 2024年改定 第2巻 教育原理(改訂1版)
- 2024年改定 第3巻 子ども家庭福祉(改訂2版)
- 2024年改定 第4巻 社会福祉(改訂2版)
- 第5巻 社会的養護と障害児保育(改訂1版)
- 第6巻 子どもの発達理解と援助(改訂1版)
- 2024年改定 第7巻 子どもの健康と安全(改訂1版)
- 2026年3月発行予定 第8巻 子どもの食と栄養(改訂1版)
- 第9巻 保育専門職と保育実践
- 2025年改定 第10巻 子ども家庭支援

保育の現場でのリアルな実践を学べる月刊誌!

## 保育の友



●毎月8日発行 ●B5判・76頁  
●定価 740円(税込)  
※2026年5月号から  
定価830円(税込)に改定

2026年 特集

今知りたい!保育の最新テーマを  
掘り下げてわかりやすく伝えます。

### 3月号 子どもの姿の理解と記録

子どもの姿をとらえた記録は子どもの姿に合わせた計画、保育実践につながります。4月号からの「私たちの指導計画」リニューアルに先立ち、子ども理解につながる「記録」について考えます。

総論 子どもを理解するための記録  
高辻 千恵 大妻女子大学 准教授

### 4月号 「私たちの指導計画」リニューアル 子どもの姿からつくる計画

指導計画に関する現場の悩みや現状にこたえ、指導計画の必要性とその構造、記録と計画と実践の循環など、子どもの姿を基にした生きた計画とするための視点を考えます。

てい談 リニューアルにあたって  
あらためて考える指導計画の重要性

大方 美香 大阪総合保育大学 学長・教授  
小櫃 智子 東京家政大学 教授  
高辻 千恵 大妻女子大学 准教授



受付中!  
定期購読



新連載

ピックアップ

改定が近づく今だからこそ知りたい!  
保育指針/教育・保育要領講座

2027年4月に迫る3指針・要領の改定。経緯や最新情勢も踏まえ、「今」だからこそ知りたい内容をお届けします!

毎号掲載中

リニューアル

私たちの指導計画

「子どもの姿」から計画へどうつなげていくのかを考えることを大切に、新ページ「計画は子どもの姿から」を毎月掲載していきます。もちろん、これまで同様に年間計画や指導計画も全年齢分を毎月お届けします。



●お申込みは、書店、都道府県・指定都市社会福祉協議会または下記へ●

■ 全社協出版部受注センター ■

受注専用 TEL. 049-257-1080 FAX. 049-257-3111  
E-mail: zenshakyos@sakyo.or.jp

全社協



社会福祉法人 全国社会福祉協議会 出版部

〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

福祉関係図書の検索・注文ができるホームページ

福祉の本出版目録

検索

▶▶ <https://www.fukushinohon.gr.jp>

# 日本保育者養成教育学会 第10回研究大会

## 実行委員会

大会委員長：大森 雅人

実行委員長：中西 利恵

実行委員：光成 研一郎

：橋本 好市

：山田 秀江

：松尾 寛子

：近藤 みづき

運営委員：脇本 聡美

柳原 利佳子

田中 達也

大城 亜水

京極 重智

深川 幹

川井 綾（以上、神戸常盤大学教育学部）

三林 一哉（神戸常盤大学総務課）

## 大会運営事務局

名鉄観光サービス株式会社 東北営業本部（担当：植松・門間）

〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央4-10-3 JMFビル仙台01 6階

TEL:022-263-1371 FAX:022-225-8774 Email:hoikusyayousei10@mwt.co.jp



## 【日本保育者養成教育学会について】



日本保育者養成教育学会は、一般社団法人全国保育士養成協議会における研究活動を前身とし、平成28年3月22日に発足しました。本学会の特徴は、研究者のみならず幼稚園、保育所、認定こども園その他さまざまな施設の保育者による協働によって保育者養成教育に関する研究活動を進めていく点にあります。学会員数は現在1,200人ほどおられます。

研究者と保育実践の場で活躍する保育者が、互いの特長を活かし「未来を支える保育者」の養成について考えるとともに、「こどもまんなか社会」の実現に貢献できるよう取り組んでまいります。

(学会HP (URL : <http://www.h-yousei-edu.jp/>) もどうぞご覧ください。)

### 日本保育者養成教育学会第10回研究大会プログラム・抄録集

発行日：2026年2月

発行者：日本保育者養成教育学会

印刷：名鉄観光サービス株式会社 東北営業本部



### 表紙・裏表紙について

神戸常盤大学には、キャンパス内に六甲山に連なる里山環境(以下、「ときわの森」)が存在します。本学こども教育学科では、「ときわの森」を将来保育者・教員を目指す学生の学習環境として機能させるとともに、地域の自然体験フィールドとして活用することを目的に、環境整備およびプログラムの開発を進めています。「ときわの森」には、学生の自然への感性を育てる教材(宝)がたくさんあります。教育方法開発のキャッチフレーズは『「ときわの森」には宝がいっぱい!』です。本プログラムの表紙には「ときわキャンパス」の風景を、裏表紙にはキャンパスの裏山である「ときわの森」の一場面を掲載しました。学びの場であるキャンパスと、日常のすぐそばに広がる里山環境が連続している、そんな本学ならではの学習環境の中で出会える“宝”の、ほんの一部ですが、ご覧いただければと思います。